

第11回 国立市文化芸術推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成31年2月18日(月) 19:00～20:30
2. 場 所 国立市役所3階第1会議室
3. 出席者 (委員)
池田委員、高橋委員、綿引委員、福間委員、今村委員、渡辺委員、沢辺委員、湯本委員
(欠席委員)
足羽委員、久保委員
(事務局)
伊形生涯学習課長、青木社会教育・文化財担当主査
4. 傍聴者 1名
5. 議 事 (1) 開 会
(2) 国立市文化芸術推進基本計画(案)について
(3) 閉 会
6. 配布資料 資料11-1 国立市文化芸術推進基本計画(案)
資料11-2 第10回国立市文化芸術推進会議での意見等対応表

7. 内 容

- 足羽委員が欠席する旨報告があった。
- 久保委員が遅参または欠席する旨報告があった。

(1) 開会

- 事務局より本日の配布資料の確認及び本日の進め方について説明を行った。
- 第9回の議事要旨の報告が行われ、議事要旨のとおり確認された。

(2) 国立市文化芸術推進基本計画(案)について

- 事務局より、資料11-1及び11-2に基づき説明を行った。

【事務局】

- ◇第10回で委員よりいただいた意見を資料11-2として提示している。
- ◇まず、4章の変更点についてご説明する。最初に施策立案の視点を「市民」と「にぎわい」といった形にしていたが「出会い」という形に変更した。
- ◇施策推進の考え方について、他の施策と文化芸術がかかわる事業展開については、もっと積極的なニュアンスが欲しいということで、もう少し踏み込んだ表現で、「あらゆる施策の推進において、文化や芸術を活かす視点を持てるよう」といった記載とした。
- ◇前回の会議で資料として出させていただいた施策の推進イメージ図を計画案にも示した。
- ◇世代間交流事業について、基本理念3のイメージ部分に「地域や世代間の出会いの創出」ということを明記したのと同時に、「文化や芸術を通じた世代間交流事業の推進」の施策の説明にも「異なる世代が出会える場所や機会を設けることで」と明記したところである。

◇主な背景・現状・課題とそれに対応する施策一覧表を作成し、4章の末尾に掲載している。
◇以上が、主だった修正点となる。説明申し上げなかった点以外でもご意見をいただいた部分については、資料1 1-2のとおり修正を加えている。

◇続いて3章の変更点をご説明する。民間の施設も国立市の文化芸術を支えているというご意見があったことから、全体の記述の中に民間施設の記述を追加した。

◇文化芸術環境についてももう少しボリュームを出し、(7)にその他の教育機関という項目を設け、市内大学の話をさせていただくのと同時に、今後は外部の教育機関との連携についても言及している。

◇前回までは谷保天満宮の無形民俗文化財である獅子舞の話のみを掲載していたが、谷保天満宮は貴重な文化財をたくさん有しており、谷保天満宮全体の話にリライトさせていただいた。

◇市民意識調査の課題抽出の件についてもご意見を頂戴したことから整理を行い、調査方法をもう少し多角的にするということのみを課題とさせていただいた。

◇2章の冒頭部分に国立市文化芸術条例の前文を載せた。

◇片仮名語の言葉を少し減らしている。

◇そのほか、事務局で修正を加えた点として、「課題の抽出」から「背景・現状・課題の抽出」といった表記としている。国の動向、都の動向といったところから、今回の施策立案にした部分も多々あるかと思い、課題等の抽出を行っている。

◇あと計画のほうで、これまで議論してきた内容をなるべく計画の中に落とし込んでいきたいといったご意見があったため、学校の話を文化芸術環境の中に加えたり、歴史・文化遺産のところに旧国立駅舎の話を記述したところである。

■説明後、委員より以下のとおり質疑・意見等があった。

【池田議長】

◇26ページの谷保天満宮の記述ところで『武蔵国多磨』との記載があるが、この「多磨」の字となっているのか。

【事務局】

◇そのとおりである。

【湯本委員】

◇35から36ページにかけて「文化芸術施策を総合的なものと捉え、福祉や教育をはじめとするあらゆる施策の推進において、文化や芸術を活かす視点を持てるよう」となっているが、「持てるよう」ではなく、例えば「視点を持って」というふうにしてはどうか。持てるように他の施策と積極的な連携を図っていくではニュアンスが少し異なる気がする。

【池田議長】

◇「持てるよう」を外すということか。

【湯本委員】

◇「持って」としてはどうか。

【福間委員】

◇「持てるよう」を「持って」はいいが、そうすると言葉として、連携を図っていくのは、主語を考えると少し変かなと思う。要するに文化芸術でない分野でも視点を持ってくれと言っていいかわけで、それならば「推進において、文化や芸術を活かす視点を持つように」なら、

まだ少しは、「持てるよう」よりははっきりすると思う。

【池田議長】

◇文化芸術本体ではなく、他の施策からもそのような見方をしてほしいという考え方と捉えて良いか。

【事務局】

◇この施策推進の考え方は他施策と混ざりあうことにより相乗効果がもたらされていくというところが本旨となる。

【福間委員】

◇本来は、「視点を持ってもらえるように」と記載したいところであるが、「視点を持って行うように連携を図っていきます」としてはどうか。

◇または、「文化や芸術を活かすように」と言ってくればよく、「視点」という言葉を使うからはっきりしないのではないか。

【今村委員】

◇さまざまな視点の中に、やはり文化や芸術も必ず組み込んでほしいというようなニュアンスだと思うため、私は「持てるよう」でいいような気がする。だからこそ、いろいろな視点の中に、いつも持てるように働きかけていく、忘れないでほしいというニュアンスではないか。

◇「福祉や教育をはじめとするあらゆる施策の推進において」「持てるよう」につながるわけで、よって「持てるよう」というのは、私は悪くないように感じる。他施策には他施策の主たる視点があって、その中に主たる視点の中にも多角的な視点が必要という意味であればこのままでも良いと考える。

【福間委員】

◇湯本委員が言ったことは「持てるよう」という日本語の曖昧さが気になっているという趣旨ではないか。

◇今の文言を活かすのであれば「文化や芸術を活かす視点が持たれるように」ならいいかもしれない。「持てるよう、連携を図っていきます」では確かに曖昧な印象を受ける。

【湯本委員】

◇「視点を持てるよう」は曖昧というか、視点を持てるようにしていくことが目的になってしまうと思う。だからこの「持てるよう」がよくないと思っており、視点は持ってやっていると姿勢が明確に出ている形になると良い。

【福間委員】

◇湯本委員のおっしゃることを尊重するなら、「視点」は抜いてしまって、「文化や芸術が活かされるように」とか、そういうふうにはっきり言ってしまえばいいと思う。「文化や芸術を活かすように」というと、誰が活かすかわからないし、主語もはっきりしていないのであれば、受け身にして、「文化や芸術が活かされるように」とすればいいのではないか。

【池田議長】

◇「視点」をとるという集約で良いか。

【湯本委員】

◇結構である。

【福間委員】

◇施策立案の視点の「にぎわい」を「出会い」に変えていただいたが、1行目から2行目にかけて、「多くの人々が文化や芸術そのものに、あるいは文化や芸術を通じて出会えるまちを目指します」という意味は、文化や芸術を通して人々が出会うことと、芸術そのものに出会うことを重ねて言おうとしていると思うが、ややわかりにくい印象を受けたため、「多くの人々が文化や芸術を通して出会い、芸術そのものにも出会えるまちを目指します」とすれば、その意味がはっきりするような気がする。

【沢辺委員】

◇事務局への質問も兼ねてになるが、前回の議論で施策立案の視点というのを、市民、前は「にぎわい」という言葉に加え、もう一つ独創性とか創造性みたいな言葉を入れて、3段階にしようという議論もあったと認識している。

◇今、この「出会い」のところに創造性という言葉も入れていただいているが、「コンパクトでインパクトのある事業」とか、「四季や景観を活かした」とか、ここはどちらかというところと独創性を補足するような言葉なのかなという気がする。この「出会い」が、その独創的な部分と、出会うという部分、2つの意味で構成されているかなという気がする。

◇この「出会い」という言葉の中にいろいろな単語を入れていることで、逆に趣旨がちょっと、出会いが趣旨なのか、創造性とか独創性があるということが趣旨なのか、一緒になっているような気がする。3つに分けずにそのままの体制を維持したのはなぜなのか。

【事務局】

◇独創性の意見についていったん「コンパクトでインパクトのある事業」という展開で3つに分けて考えたとき、それを独創性のある事業をもって、それを展開していったとき最終的にどこに行き着くのかという考えに至った。そのうえで、最終的には前回の議論にあったような、にぎわいを目指すのではなく、そういったことを通して、最終的ににぎわいが出てくればいいといったところに集約させていけば良いのではないかと事務局としては考え、創造性のある文化芸術活動といったものも、一つのツールとして、国立市の特性のある文化芸術活動というところで、それを通じて出会う、最終的ににぎわいが創出されればよいというような考え方に基づき本日の形でお示しをしたところである。

【池田議長】

◇ちょっと戻りますけど、同じところで、先ほどの福間委員の言葉を前に持ってくるということですね、「多くの人々が文化や芸術」というのを前に持ってくる。ここ、ちょっと同じ言葉が、文化芸術がたくさん、似ている感じがちょっとしますけど。

【福間委員】

◇だけど、「国立市の特性を活かした創造性のある文化芸術活動により、多くの人々が」、「出会い、また芸術そのものにも出会う」？ 出会う、出会うなんだけど。

【池田議長】

◇「多くの人々の文化芸術」が、「国立市の特性を活かした」の次に入ってくれば。

【沢辺委員】

◇創造性の行き着くユニークさを重要視することの行き着く点が「出会い」、で、あるがゆえにこの出会いの中に創造的、ユニークである必要性というのは、この文章の中に入ったという説明だったと思うが、個人的な意見としては、ユニークであること、想像的であるというこ

とは、単に出会いだけではなくて、例えば市民のプライドをどう醸成するかとか、市民意識をどう持つのかっていうことにも還啓してくるような気がしている。

◇前回の話だと施策を立てるときにどういう軸で、必ず軸を重要視するという話だったと思うが、創造性という概念を、出会いという2番目のところに集約させるべきなのか、それともやはり非常にユニークであることとか、独創的なことであるということを独立させるべきなのかというところは、もう少し議論したほうがいいような気もしたがどうか。

【福間委員】

◇確かにそうすると、ここは言葉が浮いてしまっているため「特性を活かした創造性のある文化芸術活動」ということと、もう一つ、多くの人々が出会っていく文化や芸術というのをもう一回「独自性を持った」といった記載を入れる手はあると思う。

【池田議長】

◇視点は2つだけというしばりも特になかったはずである。

◇沢辺委員の意見を踏まえて、創造性・独自性というのを併記してもいいのではないか。

【福間委員】

◇やはり、独自性をうたうのであれば、もう一つ別に置いたほうがいいし、長くなくていいから、国立市は独自性を持った文化を大切にしたいものが必要ではないか。

◇夏ごろにいろいろな人の話を聞いて、我々も夢を膨らませたと思うが、何となくここへ来て、夢がしぼんでいるので、「夢」という言葉をどこかに入れたいと思っている。独創性を持った文化を大切に、人々が夢を膨らませることをどうするか、あるいは子供たちが夢を膨らませていくような社会を目指すといった表現でも良いかもしれない。

◇この際だから、独自性、独創性でもう一つ項を設けて、そこに何か夢という言葉をおきたい。

【綿引委員】

◇私も一つ項目を立てるべきだと思う。この「市民」とか「出会い」と次元がちょっと違う質のものなので、芸術のクオリティーの問題だとかそういう話で、出会いというのはそういう意味ではなく機会の話であるから、やはりと質が違うと感じる。よって、一つ別に立てるほうが、すっきりすると思う。

【渡辺委員】

◇前回いただいたこの「にぎわい」の中の文章が非常に端的で、にぎわいという言葉を表に出すことはともかくとして、今回これを改めて読み、やはり文化芸術という言葉が繰り返し出てきて、ちょっとしつこいという感じと、確かに出会いと独自性とか分野が違うのかな、3項目にした方が分かりやすいと感じたところである。

【今村委員】

◇自分自身が昨日もコンサートを実施し、かなり独自性のある路線を学生たちが行っていたこともあるし、独創性、創造性のある文化活動というのはなかなか認められないという日ごろの思いもある。ちょっと話題が離れますが、昨日北海道で教員をしている卒業生がそのコンサートに参加して、やはり北海道では自分がやろうとしていることはなかなかできない部分があるけれど、国立に帰ってくると、みんながこういうものを受け入れてくれて、とてもありがたい、自分は卒業生でよかったということを書いてくれた。

◇だからまち全体にそういう気風があるということ、それを国立の強みとしていきたいということ、ちゃんとやるのであれば、前回も3項目という形で集約していたように感じるし、別立てにしていただくと、国立らしさという中に、新しいことをどんどん受け入れてサポートする、そういう風土があるんだというのが見えることは、大変ありがたい。

【池田議長】

◇独自性があるという文化を事務局で酌んでいただいて、3項目という形とさせていただく。

【福間委員】

◇昨日今村委員のコンサートを見ていて、僕が一番言葉としてもらったのは、「意欲」である。若い人たちが意欲を持っていて、それを伸ばすということが非常に大きなことだと感じた。新たに作る独創性・独自性の項目をつくる中に、「夢」と「意欲」を入れてもらえると良い。意欲を持った若者が、その意欲をちゃんと伸ばしていけるかどうか、結構それが勝負な気もしているし、それで子供たちはそういうことに対して夢を抱いていけるというのが一番ではないか。

【池田議長】

◇長くなくてよいので、「意欲」と「夢」を入れて、次世代の国立の子供たちや、それらが継承されていく、足がかりになれば良い。

【今村委員】

◇今、福間委員がおっしゃったことは基本理念の4番、教育の推進にもつながっていくと思う。これまでは、施策立案の視点の1、2は基本理念の1と2に何となく偏っていたものが、もう1個立てることにより、基本理念の2と3が項目2の「出会い」に集約されている形だったように感じるが、やはり基本理念の4のところ、「新たに価値をつくり出す喜びを育む」というところを酌むと3項目の対応となるし良いと考える。

【高橋委員】

◇このような計画をつくる際に一番簡単なのは、基本理念の4つをそれぞれ象徴的な言葉で言い換えれば、一番簡単につくれるとは思っていたが、それをあえて2つに絞ってきたのは、なかなかあまりやらないようなやり方かなと思っていたところである。

◇それで、今、今村委員がおっしゃったように、それぞれ基本理念がベースにはなると思っているが、それをそのままここに載せたのでは、言い方は悪いが芸がないので、それを基本理念を元に施策立案の視点として挙げることで、またこの計画を読む人がよりわかりやすくなるのかなと思う。基本理念と全くイコールである必要はないと思うが、今村委員おっしゃったような考え方でここをつくれれば、もう少しわかりやすい施策立案の視点となるのではないかな。

【綿引委員】

◇実務のほうの話を考えるなかで、5章の計画の推進体制について、ざっと読むと、立ち位置は記載されているものの、組織がどういう形で推進していくかということがイメージしづらい
◇PDCAと推進って、意味が違うように感じる。PDCAはいろいろな問題点を、どういうふうに洗い出して、そこを改善させて、またいい方向に向かってという一つの仕組みになるが、美術や芸術に関する事業を推進していくという意味とは少し異なるように思う。この章を読んでいったときに、どこが柱になって進めていくのかなというポイントと、この推進会議がチェック機能のためにあるようにしか見えないので、そうではなく、提案になるが、チェック機能プラス提案機能みたいなものを入れたらどうか。例えば世の中ではこういうものがあるよ

というのを、学識経験者の皆さんとか実務家が入ることによって、例えばこういうことをやってみたらどうかといった情報を入れる機能を持たせることも、一つのエンジンとして必要なはないかと思うし、全体のスキームを考える中で、そういうものを入れていただけたらいいと思う。

◇参考に、我々も美術館をやっていく中で、例えば作品を収集する場合、こういうものをこれから集めたらどうかと、学者の方や他の美術館の学芸員、評論家などに提案をいただくことがある。我々も聞かないとわからない部分は結構あることもあるし、そういう機能をどこかに入れておくことによって、市や団体だけでなく、もっとリフレッシュした形の仕組みができると思う。

【事務局】

◇今のお話をお聞きして、織り込むとすれば、やはり分が計術推進会議の中に、その機能を持たせるのが一番良いと感じたため、推進会議の記載部分に追記をさせていただく。

【今村委員】

◇くにたちデビューコンサートについて、追記していただいたが、少し推敲が必要だと思うので、私の方で引き取らせていただき、記述をリライトしたい。オペラはクラシックの一部で、しかも「ポピュラーな分野」というとポピュラー音楽と混同が起こったりもしそうである。

【事務局】

◇お願いしたい。

【湯本委員】

◇18ページの文化芸術環境について、民間施設のことをきちんと入れていただいたが、最初のほうは市の施設のことが述べられていて、その次にコミュニティ施設のことを言って、あと学校のことを言って、さらに民間のことに話になっているが、民間の話が出て急に「官民が一体となり」という言葉が入っていて、少し唐突な印象を受けた。

◇最後のところは民間のことについて述べているのに、そこで急に「官民が一体となり」という言葉が出てきたため、少し違和感を持った。

【事務局】

◇前段の流れを酌んだ形で、公共でも民間でも支えているという表現にしたつもりだが、確かに少し唐突な印象は受けるかなという気もする。

【湯本委員】

◇その下の段落は、今度は上段全部を受けて「官民が一体となり」という言葉がどこかで出てきてもおかしくないと思うため、標記の工夫をお願いしたい。

◇賛同の意見になるが、27ページの市民ニーズの把握のところ、市民意識調査をこういうふうな取り扱いにされたのはとてもよかったと思う。前の書き方ですと、調査の項目を一つの裏づけとして書いてあったが、ちょっとこのアンケートが弱いかなと思っていたため、この取り扱いでとてもよくなったと思う。

【渡辺委員】

◇26ページの谷保天満宮を大きなくくりとして、歴史に加え、所有留守さまざまな文化財の紹介をしていただいたことを評価する。

【池田議長】

◇湯島については天満宮とついてないで、神社になっているため、名称の確認をお願いしたい。

【今村委員】

◇57ページ以降の表について、「主な背景・現状・課題」で、基本理念2の施策③、「文化芸術施策の総合化」と書いてあるんですけど、総合化というのがどういうことか、意味が分かりづらいように感じたが、教えていただきたい。

【事務局】

◇事務局としても、本標記については迷った部分があった。今回の計画の位置づけの説明のところにも記述し、本日も湯本委員などからお話をいただいている、いわゆるほかの分野に、文化芸術という施策自体の視点を持つという意味合いである。ヒアリングを実施した際にも、文化芸術政策全般の話の中で、文化芸術が、個別の施策、政策ではなく、総合的な視点に文化芸術施策はなりつつあるんだというようなお話が出ていたこともあり、国立市の計画の位置づけもこういった形でお示しをしている。

【今村委員】

◇「主な・背景・現状・課題」というのは、一つ一つの項目が、これは現状で、これは背景でということ、読み手が一つずつ自分で割り振りをしていかないといけないような感じになっている。で、表だけではなく、例えば21ページで、全体の一番最後に矢印で、「背景・現状・課題の抽出」というふうにして、それぞれの項目でやっていただいているが、それが背景なのか、現状なのか、課題なのかというのを、何か色分けとかにしたほうがいいかなと思う。「機能強化」は課題になると思うし、「老朽化」は現状になるなど、現状とこれからやっていかなくてはならないことを区別したほうが良いと思う。

【事務局】

◇事務局としても一旦背景と現状、課題を全部、印を変えて割り振ってみたが、例えば今村委員がおっしゃっていた「施設の老朽化」は現状でもあり、課題でもあるかなというところで、少し複合的な要素もあったことから、押しなべてこういった形にさせていただいた。ただし、やはりわかりづらいというご意見が多数であれば再考する必要がある。

【今村委員】

◇時間的にいろいろなものはつながっていて、現状を踏まえた上で、課題としてやっていきたいというのがあるわけで、現状と課題というのはかなりつながっているものが多いと思うが、背景というのは例えば、どの項目になるのか。

【池田議長】

◇背景っていうのは、国や都などで法整備が行われることにより推進しなければならないという背景が必然的に生まれるというふうに解釈して良いか。

【事務局】

◇58ページでいえば、例えば一番上の「劇場、音楽等の活性化に関する法律の施行」とか、そういった部分は背景の位置づけとなるし、60ページの施策③文化財の適切な保護と積極的な活用の「文化財保護法の改正」、こういったものは背景となりうる。

【今村委員】

◇私たちは、かなり長い間この世界にかかわっているんで、比較的それらについて予備知識があるわけだが、予備知識がない人はなかなか、それを理解するのは大変な気がする。

◇4ページのところは、ほぼ背景となすし、その後はいろいろなところに散らばっている。

【池田議長】

◇何らかの方法で、見ただけで背景と現状と課題がわかるようになると良い。

【湯本委員】

◇「文化芸術施策の総合化」という言葉は、7ページのところ以外にも記載があるのか。

【事務局】

◇「総合化」という文言では出てきていないと思うが、総合的な文化芸術施策という言葉は、ヒアリング等で出てきていた。

【湯本委員】

◇今おっしゃったような、「総合的な文化芸術施策の推進」とか言ったら、非常にわかりやすいと思う。

【高橋委員】

◇体裁の問題で。例えば24ページから26ページあたりは、写真を入れたほうが良いのではないか。

【事務局】

◇今後、計画案にご意見をいただき最終的な形とした後に、写真を各所にちりばめていこうかなと思っていた。今後、ご意見がまとまってそれをお示しする際に、再度ご提示させていただきたいと思う。

【沢辺委員】

◇35ページの(3)施策推進の考え方で、初期～中期とか、初期～後期、通期もあると思うが、一般の方がこれを読んだとき、いわゆる初期、中期、後期というと時間的なスパンというか、どれぐらいの年度をかけて考えられていくものなのかということが見えにくい。

◇いわゆる時間的なスパンというのは、8ページの計画期間と対応していると考えてよいか。

【事務局】

◇そのとおりである。

【沢辺委員】

◇その場合、いわゆる初期、中期、後期というのが計画期間におけるどこを指しているのか。この図に初期、中期、後期といった表記があれば、それと対応できるのかなという気がする。

◇そのような時間的な流れみたいなのが見えたほうが良い。例えば、37ページの図に初期は何年から何年とかという表記があったほうが、どれぐらいの時間的なスパンでプロジェクトを推進していくのかというのがわかりやすいのかなと思う。

【事務局】

◇8ページのほうに大まかな、初期、中期、後期といったイメージを書き込む形で対応したい。

【沢辺委員】

◇文化芸術推進会議は、8ページで提示されている計画期間と同じぐらいのスパンで設置されるということによかったか。

【事務局】

◇文化芸術推進会議の設置期間というご質問でよいか。

【沢辺委員】

◇そのとおりである。

【事務局】

◇文化芸術推進会議は附属機関であり、特に時限があるわけではないし、条例を根拠に設置されているため、条例自体を廃止するといった議論にならない限りは永続的に設置される。

【沢辺委員】

◇14ページを読むと、これまでの経緯ということで、平成30年から31年にかけて11回開催されているという書き方があると思うが、63ページは、計画推進体制ということで、これからの体制という意味だと思うが、(3)推進会議というところでもう一度、推進会議がどういう主体によって構成されているのかというのを書いたほうがいいのではないかと。

◇また、次の64ページのPDCAというのは、62ページ、63ページに対応して書いていると思うが、そうすると62ページ、63ページだと説明が「行政」と「推進会議」という言葉になっている一方、64ページだと「市」と「文化芸術推進会議」という、単語が若干ではあるが変わっているため、統一したほうが関連性がわかりやすいのではないかと思ったところである。

【事務局】

◇PDCA図は、62、63ページを受けた形での図になりますので、「行政」という形に書きかえた上で、「推進会議」にした方がわかりやすいかなと思うため修正させていただく。

◇63ページの(3)に、このような形で構成されているということを明記するかについては、推進会議のほうで逆にご意見を頂戴し決定していただいたほうが良いと思う。

【池田議長】

◇通常の附属機関は推進会議のような構成としてあるのか。

【事務局】

◇文化芸術推進会議は若干特殊な構成となっており、いわゆる文化芸術に関する関係者というのを入れているというのは、他の審議会に比べると特殊な観点かなと思う。前段のほうで、一度それについて明記をしているところがあったため、第5章ではあえて触れないという整理の仕方になっている。そちらをどのようにご判断いただくかは、ご議論いただきたい。

【池田議長】

◇14ページで明記していれば大丈夫かとも思うが、皆様のご意見を伺いたい。

【高橋委員】

◇確かにわかりにくいと言えば、わかりにくいかもしれないなとは思いますが、今の形でも問題はないと思う。

【沢辺委員】

◇第5章の文化芸術団体の記述は、芸小ホールや郷土文化館、ギャラリーなどの団体によって構成されているといった説明が再度されているように思うので、であれば同様に、これから未来のことに関する記述でもあるので、推進会議も同様に、どういうものによって構成されているかという説明があったほうが、同じような説明の仕方なのではないかなという気がした。

【池田議長】

◇それでは、沢辺委員の意見を踏まえ、どちらかにするというところで事務局に引き取っていただきたい。

【高橋委員】

◇きょうの議論を踏まえ、手直しが入ったものをパブリックコメントにかけるということだったが、いつぐらいを予定しているのか。

【事務局】

◇パブリックコメントに関しては、3月11日月曜日からを予定しており3週間後の4月1日までを期間とさせていただき予定である。

◇本日手直しをさせていただいたものは、今後教育委員会と、3月に行われる市議会の定例会に案としてご報告させていただき、そちらからもあわせてご意見を頂戴したいと考えている。

【高橋委員】

◇ということは、パブリックコメントに出すものと、議会に報告するものというのはイコールのものと考えて良いか。

【事務局】

◇そのとおりである。

【高橋委員】

◇そうすると、特に議会への報告となると、タイムリミットがどこかであるはずだが、今回手直しをかけたものに関して、推進会議の委員に送っていただいて、最終的にここまでだったら、恐らく大きな直しというのは会議を開かなければできないと思うので、例えば誤字、脱字であるとか、その程度の修正をみんなの目を通したときに見つかることもあるかと思うが、逆算するといつごろが最終の修正期限になるのか。

【事務局】

◇時間としてはかなり少ないのが現状である。市議会の本会議自体は今週の金曜日にスタートするが、この計画案を報告する総務文教委員会という常任委員会で、それは3月13日に開催される。大体2週間前ぐらいには資料を送付する必要があるため誤字、脱字等の細かい修正については、今週末ぐらいが限度と考えている。

◇本日いただいたご意見の修正作業も、会議終了次第、今日と明日中に進めさせていただき、早急に皆様にお送りさせていただく。時間が無い中、大変恐縮ではあるが、修正点等をご確認いただいた上で、誤字、脱字等があればご意見を頂戴したい。

【高橋委員】

◇内容的な部分は議長預かりという理解でよいか。

【事務局】

◇本日いただいたご意見につきましては、修正をし、最終的には議長のほうで集約させていただきたい。

◇パブリックコメントや議会等でのご意見についての取り扱いについては、改めて推進会議を開催し、皆様に決定をしていただきたい。

【湯本委員】

◇次回の会議の招集はいつごろになるか。

【事務局】

◇今回は恐らく4月中旬から下旬、それかゴールデンウィークが明けた5月上旬ぐらいになると考える。近日中に日程調整表を送付させていただき、ご回答をお願いしたい。